

## イノベーション創出委員会 最終取りまとめ(案)に対する意見募集の結果とコメント(案)

## 1. 実施期間

平成26年5月27日(火)～6月6日(金)

## 2. 意見提出者

合計で4者から7件の意見が提出された。

【任意団体(1者)】 … YRP 研究開発推進協会

【メーカー(1社)】 … 住友電気工業

【個人】 … 2名

## 3. 提出された意見とコメント(案)

## 「1 背景」に対して提出された意見

番号	提案者名	頁	章	項目	提出された意見	コメント(案)
1	YRP 研究開発推進協会	35	4	3.1	p35の4.3.1 国家プロジェクトの実施方法の改善に関して、 新技術・サービスの導入を目指すユーザー等による評価という視点を積極的に導入してプロジェクトが実用段階にスムーズに移行できるような普及促進戦略が重要になってきている。更に技術開発と実用化開発の間を円滑かつ速やかに移行させるためには、開発者とユーザー等が相互の守備範囲を超えて一体となって開発実証を行えるような中間的な開発環境へのサポートを強化することも有効であるとする。	基本的に賛同のご意見と承ります。
2	YRP 研究開発推進協会	35	4	4	p35の4.4 イノベーションを誘発する飛び抜けて優れた環境の構築に関して、 大型ビジョンに関する研究開発に限らず、他の研究開発においても通信環境や活用可能な情報(ビッグデータ)の量が飛び抜けて優れた環境(テストベッド等)を構築し、当該分野の研究者や起業家だけでなく、多様な者へ広く開放し、破壊的イノベーションの起爆剤として活用することが有効であるとする。	基本的に賛同のご意見と承ります。
3	YRP 研究開発推進協会	39 57	5 6	2.2 3.5	p39の5.2.2 社会インフラの老朽化、及び p57の6.3.5 社会インフラ維持管理サービス技術に関して、 社会インフラの寿命延長のためには、近年、独立行政法人情報通信研究機構が中心的に開発し国際標準となったWi-SUN技術等のセンサーネットワークを用いて各種・多数のセンサー類を積極的に活用することが極めて有効であるとする。 点検・補修の用途のみならずビッグデータ解析技術により国際的に高い需要が見込まれる社会インフラの長期的な管理手法の開発等の新たな研究分野への展開が期待できるためいち早く実施すべきであるとする。	基本的に賛同のご意見と承ります。 なお、本報告書においては、特定の商標・標準は記載しません。

番号	提案者名	頁	章	項目	提出された意見	コメント(案)
4	YRP 研究開発 推進協会	40 58	5 6	2.3	<p>p40の5.2.3 安心・安全への希求、及び p58のレジリエンス向上ICTサービス技術に関して、 近年発生している過去のデータからは傾向が把握できないような極端な気象に対して、 近年、独立行政法人情報通信研究機構が中心的に開発し国際標準となったWi-SUN 技術等 のセンサーネットワーク技術を活用し各種・多数のセンサー類を積極的に活用すること が極めて有効であり、速やかな導入を促進するため、開発者とユーザー等による実用化 研究を促進することが必要であると考えます。</p> <p>また、犯罪などの人為的な脅威に対してWi-SUN 技術等のセンサーネットワーク技術を活 用して各種・多数のセンサー類を積極的に活用することが有効であり、実社会の安心・ 安全に貢献するように開発者とユーザー等による実用化研究を促進することが必要であ ると考える。</p>	<p>基本的に賛同のご意見と承ります。 なお、本報告書においては、特定の商 標・標準は記載しません。 また、犯罪対策については、参考意 見として承ります。</p>
5	住友電気工業	37 55	5 6	3	<p>最終とりまとめ(案)の第5章に記載された”今後取り組むべき技術分野”への取り 組みは、2030年を見据えた社会課題の解決に不可欠と考える。</p> <p>また、第6章に記載されている通り、国が主導して研究開発を推進すべき技術分野も 多数存在すると考えられる。第6章3節に例示されている様に、適切な目標・時間軸の 設定を国が主導して行い、産学とも連携して具体的な研究開発プロジェクトを実現させ ることが望まれる。</p>	<p>基本的に賛同のご意見と承ります。</p>
6	個人	—	—	—	<p>一般に法令、通達等は、疑義が生じないように一義的かつ合理的に作られており、これをロ ボットが直接認識して処理することも十分可能だと思います。</p> <p>したがって、法令、通達、申請書等を読んで理解し、適切に処理できる「ロボット役人」を開 発すべきだと思います。</p>	<p>参考意見として承ります。</p>
7	個人	—	—	—	<p>そもそもイノベーションは、命がけとなってしまうため若者しか出来ないのだ。スティーブ・ジ ョブズ氏は苦労して新製品を出したが命を落としてしまった。人材は不足しているのではな い。昔の頭で見るから不足に見えるだけである。40年前、新製品を開発したのは新入社 員など若者であり今の有識者がいう人材などいなかったのだ。若者の熱意は全てに勝る。2 020年東京オリンピック/パラリンピックなどイノベーションには全く関係がない。ICT情報通 信技術は産業のネタではない。コンピュータを人間に近づけるための技術であり、進めれ ば進めるほど人間疎外になっていく。今、株取引はコンピュータが行う時代になってきてお り、まもなくゲーム的金儲けは全てコンピュータが行う時代になるだろう。未来はすべて若者 に任せることであり、老人は引き下がるべきと提言する。</p>	<p>参考意見として承ります。</p>